

項目	具体的努力目標	自己評価		改善策	学校関係者評価	
		達成状況	4段階評価		4段階評価	ご意見
①豊かな心の育成	○人権学習、道徳教育、情報モラル教育の充実	○道徳科などの時数を確保し、多様な教材や手法を用いた、人権学習、道徳教育、情報モラル教育を実施した。(ローテーション道徳、校内研修の実施) ○校内人権に関する意見発表会、阿波市人権講演会、携帯安全教室、デートDV防止教室、「命の授業」、発達障がい「I'm possible」などの学習を通して、生徒の人権意識・道徳性が高まった。9割以上の生徒が、人権学習や道徳の時間に真剣に取り組む、自分や友達の人権を大切にできていると考えている。(学校生活に関するアンケート調査より) ○インターネット(SNS)を通じてのトラブルに対して、個別・全体指導を行った。 ○インターネットによる人権侵害、性の多様性に関する問題など、新しい人権課題に取り組んだ。 ○「新型コロナウイルス感染症に関する人権問題」についての学習を通して偏見や差別解消につながる意見発表があり、他の生徒や地域への啓発となった。 ○阿波市人権教育研究大会に向けて、生徒とともに教職員にも多くの学びがあった。	A	○各種講演会やゲストティーチャーによる〇〇教室などを引き続き行う。 ○保護者も含めた啓発活動を行う。(講演会の案内、学校からの各種通信、生徒と保護者とで考える機会の工夫)	A	○校則のあり方を見直す時期にきているのかもしれない。 ○時代に即した校則の見直しをするべきだ。・生徒たちにどうしていきいたいのか聞いてみてはどうか。 ○ジェンダーの時代なので、スカートやズボンなど服装で区別するのはおかしい。 女子がズボンをはくのはよいことだ。 ○カウンセラーの人数を増やすことはできないのか。教育委員会や自治体がカウ ンセラーの人数を増やすことを検討すべきだ。先生方もカウンセラーから研修をうける機会をつくってはどうか。
	○生徒指導の充実	○約7割以上の生徒が学校にいじめ等の悩みを相談できている。 ○9割を超える生徒が、学校の規則やマナーを守れている。 ○各種関連機関(スクールカウンセラー、適応指導教室、スクールソーシャルワーカー、県や市の相談員)との連携ができていく。 ○学校に来られない生徒がいるが、その生徒に対する粘り強い支援ができていく。 ○生徒とともに校則の見直しを行い、一部改訂し、共通理解を行った。	B	○保護者に対して、カウンセリングなどの子育て相談窓口を紹介する。 ○保護者と連携しながら、粘り強い支援を継続して行う。 ○教員同士の共通理解を徹底し、生徒指導に努める。 ○スクールカウンセラー、適応指導教室、スクールソーシャルワーカー等との連携を継続して行う。 ○礼儀・あいさつなどの伝統を継承し、自尊感情を育てていく。 ○時代の変化に対応した校則のあり方を模索しながら、生徒の成長を促す。	B	
	○総合的な学習の時間、特別活動の充実	○ゲストティーチャーを招聘してのキャリア教育、職業インタビューや上級学校調べ、福祉体験学習などの体験的活動に主体的に取り組み、将来や生き方について考えることができた。 ○六稜祭や体育祭、合唱コンクールでは、様々な制約がある中で、新型コロナウイルス感染防止対策など、生徒が主体的に考え、実施することができた。 ○委員会・ユニバーサル活動・各種行事などの異学年交流により、先輩から学び後輩を思いやる気持ち、学年の壁を越えて学校や学年、自分自身をよりよくしていこうという気持ちを育むことができた。 ○校内美化に心がけていると考えている生徒が9割を超えている。(学校生活によるアンケート調査より)しかし、時間いっぱい清掃に取り組めていない生徒もいる。	A	○時間いっぱい、清掃活動ができるように指導する。教員も生徒とともに、清掃活動を行い、校内美化に努める。 ○学校行事など活動の目的や狙いを生徒にはっきりと伝える。 ○学習活動のふり返りを工夫し、適切な評価をする。 ○新しい生活様式に即した学校行事のあり方について生徒とともに考える。	A	
②確かな学力の育成・特別支援教育の推進	○授業改善の推進	○家庭学習の習慣について、学年によってばらつきはあるが、全体の約3割の生徒・保護者が不十分と答えているのが大きな課題である。 ○学校で意欲的に授業に取り組んでいる生徒は、どの学年も8割を超えている。 ○「話す」「書く」等の表現力が身につくよう努力している生徒は、どの学年も8割を超えている。 ○タブレット端末を使用して授業を実施している教員もいる。	B	○家庭学習の習慣づけのために、各教科における課題の出し方を工夫する。 ○授業の最後や単元末などに、各自が学んだことの振り返りを行い、自己評価や感想を書く時間を設定する。 ○帰りの会等を利用して1分間スピーチを実施し、話す力を身につけさせる。 ○教師間の学び合いを、観点(導入、展開、振り返り、発問、板書など)を決めて実施する。 ○タブレット端末に関する研修を定期的に実施し、教員の授業改善に努める。 ○オンライン授業を段階的に取り組んでいけるように準備していく。	B	
	○キャリア教育の充実	○8割以上の生徒が将来の進路について考えることができた。 ○家庭で進路のことについて話ができている生徒が約2割いる。特に2年生は約4割を超えている。 ○各学年の発達段階に応じたキャリア教育の推進ができた。	B	○「キャリア教育」という言葉を理解してもらえるように、ホームページや学年通信を通して啓発していく。 ○職業インタビューや職場体験学習、進路希望調査を通して、家庭で将来について話し合う機会をもたせる。 ○キャリアパスポートを適切に活用し、次年度につなげる。	B	
	○特別支援教育の充実	○特別支援学級の授業では、個に応じて真剣に取り組むことができた。 ○特別な支援が必要な生徒について、保護者や関係機関と連携がとれている。 ○個別の支援が必要な生徒(通常学級)への支援が十分でないときもある。	B	○全校体制で特別支援教育に取り組めるようにする。 ○教員間で個別の指導計画を立て、個々の実態に応じたきめ細かい支援を行う。 ○「誰でもわかりやすく」を合い言葉に、インクルーシブな授業や学校生活ができるように工夫する。 ○生徒理解のための時間をとり、教員間で共通理解を図る。 ○通常学級で支援が必要な生徒に対して個に応じた支援をする。(ITの配置、環境を整える) ○特別支援学校や医療機関、課後デイサービス等関係機関と連携する。	B	
③健康・安全教育・食育の推進	○健康教育の充実	○授業開始時のランニングや腹筋、背筋など、体づくりの活動を取り入れた。 ○全学年駅伝大会を開き、持久力の向上に努めた。 ○授業内容を実態に合わせて設定し、熱中症、怪我、感染症の予防に努めた。 ○半年間、駅伝の練習を実施した。 ○生活習慣プロジェクトの一環として、自分の生活習慣をふり返ることで、個々の健康課題が明らかになった。 ○長期休業期間に各自で目標を設定し、課題改善のための取組を実施した。 ○「ノーマディア週間」をつくり、取り組むことで、自分の時間が上手に使うことができた。 ○歯科健診後の受診率を上げるために、三者面談時に再啓発を行った。 結果、受診率が32%→64%になった。 ○感染症対策として、手洗い、手指消毒、換気の呼びかけが習慣化となっていたが、冬場になると手洗いと換気があまりできていなかった。	B	○引き続き、体づくりと体力の向上に努める。 ○生活習慣改善のために課題解決の習慣化を図る。 ○歯科健診の再啓発に加えて、視力検査の再啓発を行い、受診率をあげる。 ○歯みがきの習慣化を図りたい。 ○感染症対策の徹底を継続する。	B	○林校区には自主防災組織がある。多くの校区でも進めているので、中学校と連携できれば。 ○引き渡し訓練など、実施してはどうか。 ○市と連携して、中学校が避難所となったとき職員がどう動くか、生徒たちが何ができるかなど、学習することも防災教育である。 ○専門家を招いて出前授業をしてみてもはどうか。
	○安全教育の充実	○避難訓練は、自らの命を守るために主体的に考え行動できるよう、様々な状況を設定し行うことができた。生徒の防災意識も高まってきている。 ○交通安全は生徒だけでなく、職員の意識も高まってきている。 ○出席簿の保管場所の徹底ができていない。	A	○職員の防災意識を高めるために研修の機会をつくる。 ○出席簿の保管場所の定着を図る。 ○防災マップを家庭と連携して作成する。	A	
	○食育の充実	○給食はよく食べていて、残飯は少ない。 ○栄養教諭と連携した食育の授業を計画的に実施できた。(1・3年) ○給食時間の栄養指導も衛生面に配慮しながら行うことができた。 ○放送委員会の放送を通じて、食に関する関心や感謝の心等の視点を踏まえた啓発を行うことができた。 ○部活動単位で運動部にはスポーツ栄養、文化部にはおやつづくりの指導を行った。	A	○計画的に食育の授業を実施し、自らの食生活を振り返り、好ましい食生活について指導を続ける。 ○給食時間の栄養指導を継続させる。	A	○授業交流を積極的に実践してもらいたい。 ○先生方の業務改善、時間外勤務をどうおさえるか、対策していくべきである。
④教育力の充実	○家庭・地域社会、関係機関との連携	○コロナ禍の中、地域住民との交流は充分に行えなかったが、時期を見て参観授業や合唱コンクールなど、保護者には公開できる行事もあった。 ○学年便り等の広報活動も毎回欠かさずに発信することができた。 ○SSWとも十分に連携を取り、生徒指導に活用できた。	B	○コロナ禍を考慮して、オンラインによる学校行事の映像配信を検討する。 ○地域のゲストティーチャーについても、オンラインの使用を検討する。 ○SSWやカウンセラーと連携して情報を共有し、家庭訪問を活発に行って生徒理解に努める。 ○コミュニティスクールとして、学校運営に地域の声を活かす。	B	○授業交流を積極的に実践してもらいたい。 ○先生方の業務改善、時間外勤務をどうおさえるか、対策していくべきである。
⑤研修の充実	○校内研修の工夫改善と計画的な実施	○本年度はギガスクール構想や、スマホ利用についての研究授業を行うことができ、充実した研修が行えた。 ○メンター制度を活用して、ミドルリーダーや若手教員の育成に成果をあげた。 ○授業交流の期間は設けられたが、時間や機会が確保できなかった。 ○道徳や学活の時間を活用し、ローテーションを組んで全教職員で研修し合いながら、道徳や人権学習に取り組んだ。	A	○今後も時宜に応じた様々な研究授業を行う。 ○研修内容を教員相互で共有できる環境を作る。 ○メンター制度に様々な教育課題を取り上げてさらに充実させ、人材育成に努める。 ○気軽にお互いの授業を評価できるような関係性を構築する。ある程度の交流ノルマも必要か。 ○市人研にむけて、充実した研修ができた。	A	
⑥業務改善	○業務改善に向けた取組	○ストークを全員が使用することで、自身の勤務時間の実態を把握できた。 ○長期休業中に有休を十分に消化できた。 ○「ノー残業デイ」「ノー活動デイ」を設定し、働き方改革に努めた。 ○課題を共有して、教員が互いに支え合う信頼関係がもてた。 ○ペーパーレスに取り組もうと試みたが、十分な改善は行えなかった。	B	○勤務時間の見直しをする。「ノー残業デイ」を徹底する。 ○ギガスクール構想にむけて業務の効率化を図り、それについての研修も行う。 ○有給休暇を有効活用し、相互に補充しあえる職場環境の醸成を図る。 ○各教科の教員間でワークシート等を共有し、授業準備時間の削減を図る。 ○事前に資料を配付しておいたり、ICTを活用してデータで資料を配付したりする等、会議時間の短縮やペーパーレスに努める。	B	